



夏雲帖



東都

玉蕉菴月次句集

卷中按  
雖風雅會勝坐列無  
序官家諸後已下不  
題館号樓号等之類

催主

三 東 海 西

五点之部兄座

修り老の早始つて  
苔乃いぬ  
多きと少きの森入  
わらわかな  
あまの使りもあんな  
こけ乃いぬ  
あまのつよみみて魚  
そつとさつと  
すゝの余りとこれ  
えりまのぬ  
松乃を伝てすしき  
むしろか  
常のく水もあや  
夕すくみ  
欲のまよふ松と  
市乃あや  
曳抄車杜代  
苔のまよふ  
かといき七神  
ころ七ツカ  
夕山まよふの命と  
あふれり  
さつとあまの雨  
生安  
月のまよふ  
白ひり  
涼川川流を  
あふる

半鬼 梅月 全 冠李 記石 全 音峯 全 水草 全 桂 全 志月 三枝 十桂

五点之部弟座

唯水平の軒や中乃夕す  
柳一本いと町中乃夕す  
田乃あや川せつと  
夕さきい香人て月吐か  
乙女や根乃根子交  
打のさ根乃根子交  
し鳥來てみその月乃  
下り茶乃あや  
人やつる袖ふり  
土を乃袖ふり  
あつり乃皆首  
吹つて乃皆首  
馬乃耳乃  
城出さ目乃  
い打や  
か  
夜乃  
掃出  
妻乃  
乙乃  
か  
万乃  
必乃  
子を

記石 葱光 全 洗 全 栗 全 東 世 全 津 全 半 全 山 嶺 全 崔 亭 崔 積 可 積 二 菴 笑 我 笑 連 茶 所 峯 曙 峯 南 陽 出 鳳 尾 奇 泉 以 泉 以 泉 李 長 如 作



川せきや 賤川乃  
 流すや 芳の平より  
 水たし 一 ち  
 川せきや 賤川乃  
 流すや 芳の平より  
 水たし 一 ち  
 川せきや 賤川乃  
 流すや 芳の平より  
 水たし 一 ち

仙臺 一考 全  
 伊山 全  
 龜品 全  
 東九 全  
 至谷 全  
 曾牛 全  
 青香 全  
 毒其 全  
 毒笑 全  
 若月 全  
 毒子 全

川せきや 賤川乃  
 流すや 芳の平より  
 水たし 一 ち  
 川せきや 賤川乃  
 流すや 芳の平より  
 水たし 一 ち  
 川せきや 賤川乃  
 流すや 芳の平より  
 水たし 一 ち

英泉 全  
 蒼官 全  
 馬紅 全  
 幽王 全  
 弁泉 全  
 不越 全  
 全 全  
 邦美 全  
 極子 全  
 藥山 全  
 櫻林 全  
 毒罌 全  
 牛代女 全  
 毒角 全

青香 全  
 毒其 全  
 毒笑 全  
 若月 全  
 毒子 全  
 幽王 全  
 不越 全  
 全 全  
 邦美 全  
 極子 全  
 藥山 全  
 櫻林 全  
 毒罌 全  
 牛代女 全  
 毒角 全







竹雄 全 長沙 性耕 玉河 其声 野翠 嵐下 文甫 勿言 北枳

昔の美乃乃... 竹雄... 長沙... 性耕... 玉河... 其声... 野翠... 嵐下... 文甫... 勿言... 北枳

雲志 草吟 葉里 白圭 江志 紙續 敬雷 鷄全 宗有 昌包 吳曉 芥全 巴陵 井射 帆月 佳春 宜帆 一三 菅顏

全 里核 一草 買月 全 龜島 全 秋角 全 葉里 全 美八 全 白圭 全 鳳尾 全 咏史

昔の美乃乃... 雲志... 草吟... 葉里... 白圭... 江志... 紙續... 敬雷... 鷄全... 宗有... 昌包... 吳曉... 芥全... 巴陵... 井射... 帆月... 佳春... 宜帆... 一三... 菅顏

菅顏 朝帆 春宜 帆一 三 雲志 草吟 葉里 白圭 江志 紙續 敬雷 鷄全 宗有 昌包 吳曉 芥全 巴陵 井射 帆月 佳春 宜帆 一三 菅顏





秋英 秋英の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば

秋英 芝蔴 加賀刺 南桂 桐泉 雨竹 素琴 青藍 杉枝 全全全全 對岳 笑渾

秋英 秋英の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば

秋英 陽李 橘枝 東洲 藤茂 且秀 鬼石 富角 蕉窗 李相 如平 亞西 松と

よきあはれはもろもろやききり  
秋英の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば

秋 渭 醒 佐 左 采 巨 百 文 菴 下 三 李 薺 夢 蕉 櫛 班 富 兔 善 露 菱 鬼 玄 正 木  
全 洋 水 花 介 彦 砂 山 花 理 三 女 口 電 相 母 乙 窗 山 角 山 好 帆 流 石 全 芝 角

秋英の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば  
包の山を登りて見れば

秋 渭 醒 佐 左 采 巨 百 文 菴 下 三 李 薺 夢 蕉 櫛 班 富 兔 善 露 菱 鬼 玄 正 木  
全 洋 水 花 介 彦 砂 山 花 理 三 女 口 電 相 母 乙 窗 山 角 山 好 帆 流 石 全 芝 角



かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...

かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...

かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...

かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...  
かてん... 規外... 規外... 規外... 規外...

山 北 友 月 角 光 路 石 鳳 把 栗 之 其 路 石 山 其 路 石 山 其 路 石 山 其 路 石

山 北 友 月 角 光 路 石 鳳 把 栗 之 其 路 石 山 其 路 石 山 其 路 石 山 其 路 石

其卯 花哨 鳥曉 四暢 馬令 風夜 松杜 春人 榎老 全 草裾 鳥溪 南枝

田州 半鬼 挂羅 冠李 松紅 只言 杞柳 再可 月桂 是行 仙甚 東九 互答 卧龍 栲林

當年四海句双紙入六印之部

るるあそびに二十のりゆてたききり
ちのぞおね給葛のうらみは名よまふれ
あ朝をさる中うらみ雲の峯
おはらけおち給て仕すゆぬまきかき
秋風のたなもとあそびん暮るかり味
苗の香の国よ入るやあそびまき
葉の香のやそのほくもあそび
ちるるさるるあそびるるさるるあそび
給の香よおち給てあそびるるあそび
川せみやるとおち給てあそびるるあそび
暮るるあそびるるあそびるるあそび
漁舟のあそびるるあそびるるあそび
世の中よあそびるるあそびるるあそび
古代の名よ川せらあそびるるあそび

田州 半鬼 挂羅 冠李 松紅 只言 杞柳 再可 月桂 是行 仙甚 東九 互答 卧龍 栲林

田州 半鬼 挂羅 冠李 松紅 只言 杞柳 再可 月桂 是行 仙甚 東九 互答 卧龍 栲林



水々———の葉の上をうり月夜  
 草よよと心くして居る世に  
 川をみやひから白の水くく  
 急なけを流るる月夜の苔  
 川をみや魚をとせぬ札り上  
 新布を涼———くまきり二葉  
 欲き力をはたして去り去り  
 磯山や虹のまをなれをき  
 似塔のまを———ぬんよ川一納涼  
 研———て伽藍———やほとま  
 一寸のまをまの時まかぬぬし  
 一刷毛のぬる雪不二やま桑風  
 朝夕をからぬ雪ふとま桑  
 月の生るはて———をせぬぬの石  
 涼———はやおろかよ引———魚の子

霞山 借イイワ  
 文思 サカキ  
 月仙 長セ  
 化成 ヨシタ  
 萬八 仙臺  
 芳齋 モトミヤ  
 悟生 秋田  
 吞舟 房北並  
 器守 三六  
 春嶽 對松破  
 太乙 連  
 漪子 全  
 峩月 言々  
 抱鹿 、面

心さく涼———きまらぬあはれ———  
 唇の涼———うぬぬぬぬぬぬ  
 涼———はのとも———火のとも  
 涼———はま吐ぬぬぬぬぬぬ  
 小溜んぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 涼———はまをまをまをまをまを  
 芳火冷ふ人よまをまをまをまを  
 根よかへはまをまをまをまをまを  
 いの戸やはくくくくくくくくくく  
 青園をまをまをまをまをまを  
 草くくくくくくくくくくくくくく  
 白雲に鏡かりうくくくくくくく  
 雲の峰よまをまをまをまをまを  
 是くくくくくくくくくくくくく  
 まをまをまをまをまをまをまを

一笑 ニハナ  
 鳥同 ヨツ谷  
 雪逢 本所  
 如竹 秋田  
 斗白 、アニ  
 吐曉 、アニ  
 對岳 石川  
 沾楯 奥岩キ  
 班鬼 、僧  
 薜母 仙臺  
 富泉 仙臺  
 家月 千代ウラ  
 蘭路 下善山  
 文理 下善山  
 一水 下善山

暖くも御けちりまはけき其の静く  
其の香みひまきハたちぬるはの晴  
まはけやひまきりきそはげまはく  
傾城のはちとをらんや一十板付  
待ねこり月半輪のほろまき  
見しそまみあはまきもぬきまのる  
さのしや泥まふまむるまき  
窓かろりりまきものまきまき  
芥まやまきをえりまきまき  
夕まきをちりまきまきまき  
拾まきまきまきまきまき  
第一目乃けりまきまき  
芳まきまきまきまき  
飯籠まきまきまき  
管佛の埃りまきまき

オク井千 豊水  
奥香川 芦魚  
下廿毛 崔老  
水戸 若雨  
常三十三 仕候  
下廿毛 規外  
下廿毛 求山  
但三飯 竹翠  
信子林 原二  
宗有 嵐兆  
半月 勒居  
湖柳 宗有  
竹馬 湖柳  
十五

灯籠の火よりかきあけ 芳まき  
息あけまきまきまき  
甚修まきまきまき  
甚の香まきまきまき  
芳まきまきまき  
清まきまきまき  
蒲まきまきまき  
芳まきまきまき  
飯の宿まきまき  
七点部

奥タテ 仙風  
江戸 朶花  
赤天ツ 桂羅  
三カハ 教之  
江戸 樹村  
木ッ 巴蜀  
イ十未 騎勢  
常中 紫雲  
一廿分 研月  
上弁 里磨  
水戸又カマ 千代女  
ソカル 汎兮  
オク山 孤雲  
水戸 知牛



秀逸

ちり水と玉とさくくして昔乃花 東山  
 夢の極までしかつり勢を流し且年 采沢三井箱  
 ちりさくふ加のけりけりや昔乃花 信大川  
 田の物なみてくらお玉昔乃花 三ハル  
 多葉あきき一は櫻を枕の昼寐 房州  
 信むくのきく後も又也川昔乃花 久平  
 飯の香よおあきて四条川 久平  
 志を換りけりはかきも又也川昔乃花 久平  
 飯の手よあつこのさけはとあき フカ川  
 二日月の細くもねらへ葵乃味 下タテ  
 幸くくも葵ハすり人新名をくす 下守谷  
 川せみおあきもせぬすり火うち 一信  
 十点 鶴老  
 涼一はを梯おあきよひく木を修 真ガテ  
 雲のみ 手三六町  
 天の何 ちりの

# 乾 埤 溝 氣

九句と想言点  
 桑画坊幅  
 甚るるは應遊氣圖

夏季集白一万二千以上存する余吟

追加

砂持おあき  
 仙其堪南  
 梅雲  
 芝山  
 杉枝

廿五点	下御守否信	鶴老
廿四点	东坊久松街	峰月
廿三点	水戸新田	栲林
廿二点	筑前甘木	桂露
同	东坊雲南	采花
同	津野弘安	可泉
廿一点	武江深川	杉枝
同	仙其堪南	仙山

